

GMO INTERNET GROUP

2022年12月期 第3四半期決算説明会 質疑応答の要約

2022年11月14日に開催した決算説明会において、参加者の皆さまから頂いた質問をまとめたものです。GMOインターネットグループ・CFOの安田、インフラ部門統括の伊藤、グループ財務部長の稲垣、GMOフィナンシャルホールディングス代表執行役社長の石村、GMOアドパートナーズ代表取締役の橋口より回答させていただきました。また、一部IR部門にて回答を補足させていただいております。

●インフラ事業

【Q1】 インフラ全体が好調に推移したということだが、各セグメントについて社内計画比でどうだったかコメントをいただきたい。

【A1】 インフラ事業は基本的に積み上げ型の収益モデルとなっており、各セグメントともにほぼインラインの推移となっています。

【Q2】 イエラエのグループジョインによるPL影響はどうなっているか？

【A2】 イエラエについてはこの2QからPLヒットが始まっています。売上についてはホワイトハッカーの稼働率の上昇もあり8億強の貢献があり、QoQで損益は改善したものの、まだ投資先行であることから、のれんなどの償却2.4億円を含めて、3億弱の利益押し下げ要因となっています。なお、この数字については、グループジョイン時の想定線で推移しております。

●広告メディア事業

【Q3】 好調に推移している広告・メディア事業について、好調な理由の詳細をプロダクト別・業種別などにご説明いただけるか？また、Q4以降の持続性についてどう見ているか？

【A3】 コロナ禍において、行動制限がある中でも伸ばせるプロダクト、業種を開拓することで業績を拡大させてきたが、これに加えて、今般の経済再開に伴い、マーケティングを自粛されていた業種業態のお客さまの取引高が戻ってまいりました。自社サービスとして展開しているアフィリエイトについては、運用型広告と組み合わせることで、お客さまの幅広いマーケティング課題に対応できるようになってきています。また、自社のメディアについても、行動制限がある中で、新たなユーザーを獲得できており、現在も継続的に伸ばすことができます。

こうした好調なトレンドは、年末から来年1-3月の繁忙期に向けて継続していくと見えています。合わせて各社で投資を実行している段階です。

●暗号資産価事業

【Q4】 暗号資産取引所FTXの経営破綻の報道がでているが影響は出ているか？

【A4】 FTX系列企業との取引なく、直接的な影響はありません

【Q5】 営業損失が拡大したが、各セグメントの状況はどうなっているか？

【A5】 GMOフィナンシャルHDのIRでも開示させていただいているが、暗号資産交換事業の取引高減による

GMO INTERNET GROUP

減収の影響が大きく、約6億の損失となっています。暗号資産決済事業は投資フェーズにあることから2億ほどの損失。またマイニング事業も若干の損失計上となりました。

【Q6】 マイニングセンターの稼働率の低下は電力の調達の問題によるものなのか？ マイニングセンターのハッシュレートが、従前開示があった500PH/sの6割程度まで下がっているように見えるが実態はどうか？

【A6】 2Q末の段階ではご指摘いただいた水準です。稼働率の低下は、外部業務委託しているマイニングセンターの運用体制が不安定な事によるもので、設備の損耗などがあるわけではありません。

【Q7】 マイニング事業について、HRの規模感ほどの程度か？ また、稼働率の低下が続いているようだが？

【A7】 HRの規模については300PH/sほどで前四半期末と大きな変化ありません。稼働率でいうと60%ほどの状況です。

【Q8】 FTX経営破綻の報道がでているが、預かり資産を引き出すような動きは見られるか？

【A8】 大きな動きは見られないというのが全体感です。保守的にご自身のウォレットに移されている方がいらっしゃる一方、海外から資金を引き上げているような流入も見られる状況です。

● GMOあおぞらネット銀行

【Q9】 GMOあおぞらについて、取得単価を約半分にしているが、単純に50%評価減したということで良いのか？ 何を読み違えたのか？

【A9】 ご指摘のとおりです。GMOあおぞらネット銀行は非上場であるため、事業計画をベースに株式価値を算定しています。今回、事業計画の遅れから保守的に評価をさせていただいたものです。事業計画の遅れについては、①振込手数料を業界最安値水準に引き下げたことによる売上へのマイナス影響、②デビットカードの法人大口利用が市場要因により停滞したことが主な要因です。

今後はインターネット専業銀行として、ネットマーケティング、オペレーションのチューニングを徹底することで、岩盤ストック収益を積み上げていきたいと考えています。

● 株主還元

【Q10】 第三四半期については無配となったが、通期での株主還元については自信を持たれているような印象を持ちました。この点、2019年12月期に自己株式の取得150億を前倒しで実施したが、どれだけ先行している状況なのか？

【A10】 3Qは純損失となりましたが、株式の評価損によるもので、グループ全体の事業コンディションが悪化したことによるものではなく、4Qについては淡々と業績を積み上げていきたいと考えています。

なお、自己株式の取得の前倒しに関しては、ここ数年の利益進捗から鑑み、数十億円単位で前倒しで取得できているという状況です。なお、今期既に開示している分については淡々と実行してまいります。

GMO INTERNET GROUP

●その他

【Q11】 NTTドコモ社がWeb3に6,000億円規模の投資をすると発表したが、こういった大企業の参入はGMOインターネットグループにとって機会、脅威どちらにあたるか？

【A11】 Web3領域の活性化につながると考えられ、グループで持っている様々な機能を提供できるチャンスも自ずと増えてくると考えています。

以上